

山陰研究センター山本文庫目録稿（二）

田中則雄
（島根大学法文学部）

摘要

山陰研究センター蔵山本文庫は、島根県安来市母里の山本家に伝存した近世の古典籍群から成る。近世小説（特に実録）、漢詩文等々に加え、母里の地で営まれた俳諧の書にまで広くわたるものである。

キーワード・実録、近世小説

前号所収「山陰研究センター山本文庫目録稿（一）」に続き、国文学関係書目を掲げる。

目録

（一）実録（前号の補遺）

一三三、秘書花洛鑑

写本、四卷一冊 二五・七×一七・九糎

（外）寛政秘花洛鑑（内）秘書花洛鑑

丁数 四一

蔵書印①（雲州／母里／山本屋）径三・〇糎、冊末

※序あり（年時、序者名なし）。

※中山大納言物の実録。

蔵書印（前号の補遺）

今号所載の書目の中に、次の蔵書印が見出された。前号所掲の①、④に続き⑤として掲げる。

⑤「母里／山本屋」、円形、径二・七糎（墨印）

⑤



(二) 軍記・伝記・雑記

二四、三好軍記

刊本、巻中のみ存、一冊 二六・一×一八・四糎

(外) 三好軍記(内) ナシ(目録) 三好記

丁数 二六

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

蔵書印②(「山本屋」二・一×一・〇糎)、冊首

※寛文三年刊本あり(国書総目録)。

二五、通俗列国志呉越軍談

写本、巻一のみ存、一冊 二六・三×一八・一糎

(外) ナシ(内) 通俗列国志呉越軍談

丁数 七八

書写年時不明(近世中後期)

※本文は冒頭から漢字片仮名交じり、途中から漢字平仮名交じりと

なる。

※仮綴。

※元禄十六年刊本あり(国書総目録)。

二六、通俗南北朝梁武帝軍談

刊本、巻六・七のみ存、二冊 二五・八×一七・八糎

(外) 「通/俗」南北朝軍談(内) 通俗南北朝梁武帝軍談

丁数 (一) 二〇・五(二) 二二

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

※初印は宝永二年(国書総目録)。

二七、明清軍談国姓爺忠義伝

刊本、巻十八・十九のみ存、一冊 二五・四×一七・五糎

(外) 「□清/□談」国姓爺忠義伝(角書は「明清/軍談」とある

べきところ、一部破損)(内) 明清軍談国姓爺忠義伝

丁数 四八

刊記「享保十乙巳曆孟春吉辰/書林/洛陽五条橋詰・田中庄兵衛、

武陽十軒店・中村氏進七/開版」

※初印は享保二年(国書総目録)。

二八、西国太平記

刊本、巻一・三のみ存、二冊 二五・四×一六・九糎

(外) 西国太平記(内) 西国太平記

丁数 (一) 二八(二) 二七

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

※各冊首に墨印あり(「雲角」か。二・一〇×一・三糎)。第二冊(巻

三)の後表紙見返しに墨書き「住田屋佐左衛門」。

※延宝六年刊本あり(国書総目録)。

二九、赤城義臣伝

刊本、巻九のみ存、一冊 二二・二×一六・〇糎

(外) 扶桑義臣伝(内) 赤城義臣伝

丁数 一六

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

蔵書印①〔雲州／母里／山本屋〕径三・〇糎、冊首

※冊首、末に墨印あり〔雲州／松江京店／大橋通／米屋又三郎〕
五・三×三・四糎。

三〇、近世江都著聞集

写本、卷一・二のみ存、一冊 二六・五×一八・八糎

(外) なし(表紙欠)(内) 近世江都著聞集

丁数 二二

書写年時不明(近世中後期か)

※仮綴。

(三) 仮名草子・読本・明治期小説

三一、武者物語

刊本、巻中のみ存、一冊 二七・三×一八・三糎

(外) なし(表紙欠)(内) 武者物語

丁数 二五

最終冊存せず、元来の刊記等については不明。

※松田秀任作の仮名草子。明暦二年刊本あり。

三二、通俗大聖伝

刊本、五卷五冊 二二・八×一六・〇糎

(外) 〔画／図〕通俗大聖伝(内) 大聖伝

丁数 (一)二〇(二)一六(三)一六・五(四)八(五)八・五

刊記「書林／御江戸麹町貝坂角・文栄堂 三崎屋清吉梓」

※序「画図大聖伝序／皆寛政二歳庚戌孟陬／東武 岩瀬京伝有濟

謹誌」。跋「自跋／武城 岩瀬京伝有濟謹述／従弟 全四郎恵謹校」。

※山東京伝作、北尾重政画。

三三、明月清譚

刊本、五卷五冊 二二・一×一五・二糎

(外) 〔仙斉／奇縁〕明月清譚(内) 〔仙斉／奇縁〕明月清譚

丁数 (一)一七・五(二)一八(三)一九・五(四)一七・五

(五)二一・五

刊記「和漢西洋書籍売捌処／大阪心齋橋博労町角・群玉堂河内屋岡田茂兵衛」。明治期の後印本。

※東籬亭菊人作、森川保之画の読本。初印は文政十二年。

※第一・三～五冊の各冊首、第二冊の末に朱印あり〔寺岡〕二・二×一・〇糎。第一冊の前表紙に「百五十九」の貼札、末に

「に九八」「十五ま」の票あり。

三四、東洋之佳人

刊本、一冊 二三・四×一四・七糎

(外) 東洋之佳人(内) 東洋之佳人

丁数 二八

刊記「明治二十年十月八日版權免許／明治廿一年一月十五日刻成出版／同廿三年十月十五日再版出版／改正定価拾五錢／著作者／東京府北豊島郡下駒込村千三百六十八番地・柴四朗／発行者／東京市日本橋区久松町十四番地・白井永整／印刷兼売捌人／東京市神田区西

小川町式丁目五番地・博文堂 原田庄左衛門」

(四) 和歌・漢詩

三五、歌枕秋の寢覚

刊本、一冊 一〇・九×一六・〇糎

(内) ナシ(目録) 歌枕秋のねさめ

丁数 二二・三六

刊記「正徳二壬辰歳二月吉旦／二条通御幸町西へ入ル町・金屋利兵衛」

墨書き「此主 山本孫右衛門／此主 山本松酔」、冊首。「此主 山本幸助」、冊末。

※題簽はごく一部が残るのみ。「□秋の寢□」。

※有賀長伯編。初印は元禄五年。

三六、菅公御自作之詩歌

写本、一冊 二五・四×一七・八糎

(外) 菅公御自作之詩歌(内) 菅公御自作之詩歌

丁数 一〇・五

嘉永四年頃写

※小山躍魚の序あり、次の如く言う。嘉永四年正月二十五日、松江

園山白亀先生に伴われ天満宮(松江白濁天満宮)に参詣する道すがら、先生より菅公に關して、その事蹟と、天拝山にて雷霆となり、「後世無実にして罪を受くる者、我が詩歌を唱うれば我水火となりかわり助救せん」と言ったとのこと聞き、その後この詩

歌一卷を授けられた、と。
※仮綴。

(五) 謡曲・浄瑠璃

三七、田村

刊本、一冊 一九・二×二三・三糎

(外) たむら(内) 田村

丁数 一四

刊記「于時正徳三癸巳仲春吉辰／二条通御幸町西へ入ル町・山本長兵衛新刊」

冊首に、朱にて「宝曆四戌十二月 此主(以下不鮮明、かつ次の墨書きと重なり判読できず)」、墨書き「山本松酔」。

※三八「海士」と一連のもの。

三八、海士

刊本、一冊 一八・八×一三・〇糎

(外) ナシ(内) 海士

丁数 一五・五

刊記「于時正徳三癸巳仲春吉辰／二条通御幸町西へ入ル町・山本長兵衛新刊」

墨書き「寛保元歳／長野屋安太郎」、冊首

※三七「田村」と一連のもの。

三九、忠度

刊本、一冊 一八・四×一三・〇糎

(外) たゝのり「新板/当流」(内) 忠度

丁数 一五・五

刊記「于時元禄三庚午二月吉辰/二条通御幸町西へ入ル町・山本長兵衛新刊」。後印か。

墨書き「文化式/乙丑正月吉辰/由泰(花押)」、冊首

四〇、実盛

刊本、一冊 一八・六×一三・四糎

(外) さねもり「新板/当流」(内) 実盛

丁数 一七・五

刊記「于時元禄六癸酉二月吉辰/二条通御幸町西入ル町・山本長兵衛新刊」。後印か。

※仮綴。

四一、老松

刊本、一冊 二一・四×一五・二糎

(外) 後補墨書き題簽、「(上部破損)老松」(内) 老松

丁数 八

刊年不明(近世中後期頃)。

墨書き「此主 山本(以下破損)」、冊首。「此本主/山本藤九良

慶澄(花押)」、冊末。

四二、八島

刊本、一冊 二一・四×一五・三糎

(外)「当流/観世」八しま(内) 八島

丁数 一一・五

刊記「寛政七年乙卯二月 求版/大坂北堀江市之側・和田屋喜兵衛」

蔵書印①(雲州/母里/山本屋)径三・〇糎、前表紙、冊首

墨書き「山本孫右衛門 由泰(花押)」、冊首

四三、熊坂

刊本、一冊 二一・四×一五・三糎

(外)「新板/当流」熊坂(内) 熊坂

丁数 九・五

刊記「大坂南久太郎町心齋橋筋・正本屋仁兵衛」
刊年不明。

前表紙見返しに、次の如き年時、人名等が錯綜して墨書きされている。「寛政三年」「寛政八年」「三月吉祥日」「菊治郎」「調之」「此主

菊次郎」「謡門弟 山本屋孫右衛門 門弟四人」。

四四、邯鄲

刊本、一冊 二一・一×一五・二糎

(外)「新板/当流」かんたん(内) 邯鄲

丁数 七・五

刊記「大坂南久太郎町心齋橋筋・正本屋仁兵衛」
刊年不明。

墨書き「此主 山本屋孫右衛門」、冊首

四五、軒端梅

刊本、一冊 二一・六×一五・四糎

(外) 軒端梅(内) 軒端梅

丁数 七・五

蔵書印①(「雲州/母里/山本屋」径三・〇糎)、冊首、末

墨書き「山本孫右衛門」、冊首

※後表紙見返しに下記に如く墨書きして付す。「此稽古謡大成百番

者観世左近太夫以章句写之当流秘密并拍子附改正加吟味指南抄一

卷添令板行者也/寛政十二年庚申正月吉日/山本屋孫右衛門」。

四六、高砂

刊本、一冊 二一・八×一五・五糎

(外) 高砂(内) 高砂

丁数 八・五

蔵書印①(「雲州/母里/山本屋」径三・〇糎)、冊首

墨書き「山本由泰」、「山本孫右衛門」、冊首。「山本氏」、後表紙。

※後表紙見返しに下記に如く墨書きして付す。「此稽古謡大成百番

者観世左近太夫以章句写之当流秘密并拍子附改正加吟味指南抄一

卷添令板行者也/寛政十三年辛酉正月吉日(以下、重ね書きされ

て判読できず)。

四七、田村

刊本、一冊 二一・六×一五・一糎

(外) 田村(内) 田村

丁数 九

刊年不明(近世中後期頃)。

蔵書印①(「雲州/母里/山本屋」径三・〇糎)、冊首

墨書き「山本孫右衛門」、冊首

四八、三輪 野宮 卒都婆小町 羽衣 井筒

刊本、一冊 一九・〇×二三・二糎

(外) 三輪 野々宮 卒都婆小町 羽衣 井筒(内) 三輪 野宮

卒都婆小町 羽衣 井筒

丁数 五三

刊年不明(近世後期頃)。

蔵書印⑤(「母里/山本屋」径二・七糎)、各本文首

墨書き「山本屋孫右衛門」、冊首

※「三輪」「野宮」「卒都婆小町」「羽衣」「井筒」を合綴。

※四九「兼平」と一連のもの。

※「野宮」の本文首に墨印あり、「信好」一・五×一・〇糎)。山本氏のものであるか未詳。

四九、兼平

刊本、一冊 一八・八×二三・一糎

(外) 兼平(内) 兼平

丁数 一四

刊年不明(近世後期頃)。

墨書き「此主 山本孫右衛門(花押)」、冊末

※四八「三輪 野宮 卒都婆小町 羽衣 井筒」と一連のもの。

※冊首に墨印あり、「信好」一・五×一・〇糎)。四八に同じ。

五〇、海士

刊本、一冊 一八・六×一三・五糎

(外)「新板／当流」海士(内)海士

丁数 一四・五

刊記「大坂□□西横堀船町天満□／玉水源二郎」(刷りが不鮮明)。

刊年不明(近世後期頃)。

墨書き「山本由泰」、冊首

五一、竹生島

刊本、一冊 二一・一×一五・二糎

(外)「当流／觀世」竹生島(内)竹生島

丁数 六・五

刊記「書肆／大坂平野町御靈筋西^え入・天満屋安兵衛求板」

刊年不明(近世後期頃)。

五二、はせお 船弁慶

写本、一冊 二一・五×一五・八糎

(外)はせお 船弁慶(内)ナシ

丁数 五・五

書写年時不明(近世後期頃)。

※仮綴。

五三、大瓶狸々

写本、一冊 二六・四×一八・三糎

(外)なし(表紙欠)(内)大瓶狸々

丁数 四

書写年時不明(近世後期頃)。

※表紙を欠く。仮綴。

五四、小うたひ

写本、一冊 二五・六×一七・九糎

(外)小うたひ(内)ナシ

丁数 二一

書写年時不明(近世後期頃)。

※「高砂」「難波」「老松」「雲林院」「くらま天狗」など。

五五、小謡宝鑑

写本、一冊 二四・〇×一六・六糎

(外)小謡宝鑑(内)ナシ

丁数 一三

蔵書印①「雲州／母里／山本屋」径三・〇糎、前表紙、冊首

墨書き「此主 山本屋岩太郎」、冊首他

※前表紙に墨書き「寛政八年辰正月吉日」。この時書写か。

※「高砂」「なには」「おひまつ」「ちくふしま」など。

※仮綴。

五六、囃謡

写本、一冊 一五・二×二二・三糎

(外)囃謡(題簽は外れて冊中に挟み込まれる)(内)ナシ(目

録)囃謡

丁数 一〇一 (後半の五〇丁は白紙)

書写年時不明 (近世後期頃か)。

※「高砂」「三輪」「邯鄲」「八島」「融」など。

五七、小栗判官物語

写本、一冊 二七・〇×一八・二糎

(外) なし (表紙欠) (内) 小栗判官物語

丁数 九

書写年時不明 (近世中後期か)。

※「蟻若君御誕生之事」「小栗正常陸国え追放の事」の章段のみ存。次の「後藤佐衛門乾の御所え文の使の事」は章段名のみあって、以降の部分を欠く。

※説経の詞章に拠ったものと推定されるが、章段を立てて読み物化している。

※仮綴。

五八、十種香の段 (本朝廿四孝 十種香の段)

刊本、一冊 二二・〇×一五・八糎

(外) 廿四孝 四ツ目 (後補墨書き) (内) 本朝廿四孝 四段目 (扉) 十種香の段

丁数 三四

扉に、「大阪船町・加嶋屋清助板」。

刊年不明 (近世後期)。

※扉には、中央に大きく「十種香の段」、その左に「再板」「廿四孝」四段目の切」とする。

※後表紙に墨書きあり (擦り切れて不鮮明な文字あり)、「鶴澤」□／鶴澤□□。

五九、遠州屋の段 (敵討優曇華龜山 遠州屋の段)

刊本、一冊 二二・〇×一五・七糎

(外) うき、の亀山遠州屋の段 (後補墨書き) (内) 敵討優曇華龜山 遠州屋 (扉) 遠州屋の段

丁数 二八

扉に、「大阪船町・加嶋屋清助板」。

刊年不明 (近世後期)。

※扉には、中央に大きく「再／板」遠州屋の段」、その左に「優曇華龜山 八冊目」とする。

※後表紙に墨書きあり、「主／鶴澤一若」。

六〇、太平記忠臣講釈

写本、一冊 二五・七×一七・七糎

(外) 太平記忠臣講釈 (内) ナシ 丁数 七

書写年時不明 (近世中後期頃)。

墨書き「此主／山本屋重藏」、冊首

※仮綴。末尾に欠丁あり。

【付記】本稿は、山陰研究センター基盤形成事業 (二〇二二年度) の成果の一部である。

The List of Yamamoto-bunko owned by San-in Research Center(2)

TANAKA Norio
(Shimane University)

[Abstract]

Yamamoto-bunko owned by San-in Research Center is a collection of classical books inherited by the House of Yamamoto, in Mori, Yasugi City, Shimane Prefecture. It includes the novels written in the Edo period (especially *jitsuroku*), the books of Chinese poetry, and those of *haikai* produced in the Mori district.

Key words : *jitsuroku*, a historical novel, novels in the Edo period